

機関番号：15401

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21730624

研究課題名 (和文) 統一後ドイツにおける教育課程編成に関する理論的・実証的研究

研究課題名 (英文) Research on the Curriculum-Development after German unification

研究代表者

吉田 成章 (YOSHIDA NARIAKIRA)

広島大学・大学院教育学研究科・講師

研究者番号：70514313

研究成果の概要 (和文)：

統一後ドイツにおいては、「教育スタンダード (Bildungsstandards)」によるカリキュラム改革が進められてきている。本研究では、この「教育スタンダード」に基づくカリキュラム改革を理論的・実証的に検討した。具体的には、ドイツカリキュラム論に関する文献研究、州レベルでの学習指導要領 (Lehrplan) 改訂の分析、フンボルト大学 IQB (教育制度における質的開発研究所) およびベルリン州の公立小学校でのフィールドワーク等を行った。その結果、(1) コアカリキュラム Kerncurriculum 論を議論の焦点としながらカリキュラム論が展開されている点、(2) 州レベルの学習指導要領がコンピテンシーモデルに基づいて作成されつつある点、(3) 子どもへの個別支援とコンピテンシー獲得に重点を置いた教育実践が行われつつある点、を明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：

After German unification, the “standard-based-curriculum” (“Bildungsstandards”) reform has been advanced in Germany. In the present study, the curriculum reform was examined theoretically and empirically. As a result, the following three points became clear. (1) The curriculum theory must be progressed while assuming the core curriculum theory to be a focus of debate. (2) Curriculum (Lehrplan) must be made based on the competency model. (3) Individual support to children and teaching-learning that gives priority to competency acquisition must be practiced.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：教育方法学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育課程、カリキュラム、教授学、学習指導要領、授業、コンピテンシー

1. 研究開始当初の背景

近年のドイツにおける教育課程編成に対して、二つの大きなインパクトが影響している。一つは、1990年10月3日の東西ドイツ

統一である。ドイツ統一後、とりわけ東ドイツ地域の教育課程編成をめぐって大規模な教育改革が行われている。いま一つは、国際学力調査を受けた2000年代以降の「PISAシ

ヨック」である。とりわけ、2003年以降、国家基準としての「教育スタンダード」が策定・導入され、教育課程編成のあり方および授業構成に対して、大きな改革がなされようとしている。これらの点については、わが国においても紹介され、検討されてきた。

しかしながら、「教育スタンダード」が東ドイツ地域に与えた影響としての「諸州横断的なカリキュラム」に関する動向や、その授業実践に関する影響などについては十分に明らかにはされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、統一後ドイツにおける教育課程編成がどのようになされてきているのかを、具体的な授業実践との関連から理論的・実証的に明らかにすることである。

具体的には、次の三点を明らかにすることを目的とした。

- (1) 現代ドイツカリキュラム論の特質
- (2) 州の学習指導要領改訂の特徴
- (3) 学校教育実践の現状と課題

3. 研究の方法

研究の方法は以下の三つによった。

(1) 文献研究

2000年代のドイツにおける教育課程編成および授業構成について、文献・資料をもとに明らかにした。とりわけ研究の対象とした文献・資料は以下の通りである。

- Berliner Landesinstitut für Schule und Medien/ Landesinstitut für Schule und Medien Brandenburg (Hg.) (2004): *Pädagogische Begriffe zu den Rahmenlehrplänen Grundschule.* (http://www.berlin.de/imperia/md/content/sen-bildung/schulorganisation/lehrplaene/paedagogische_begriffe.pdf?start&ts=1275044680&file=paedagogische_begriffe.pdf)
- Bundesministerium für Bildung und Forschung (2005): *Zur Entwicklung nationaler Bildungsstandards. Eine Expertise.*
- Gehrman, A. / Hericks, U. / Lüders, M. (Hg.) (2010): *Bildungsstandards und Kompetenzmodelle. Beiträge zu einer aktuellen Diskussion über Schule, Lehrerbildung und Unterricht.* Julius Klinkhardt, Bad Heilbrunn.
- Hofmann, J. / Schulze, H. -J. / F. -Bieckmann, W. / Breyer, H. (Hg.) (2004): *Gemeinsame Entwicklung von Rahmenlehrplänen für die Grundschule in den Ländern Berlin, Brandenburg, Bremen und Mecklenburg-Vorpommern. Abschlussbericht der Projektgruppe.*

(http://bildungsserver.berlin-brandenburg.de/fileadmin/bbs/unterricht_und_pruefungen/rahmenlehrplaene/grundschule/rahmenlehrplaene/pdf/GS_ABericht.pdf)

- KMK (2005): *Bildungsstandards der Kultusministerkonferenz, Erläuterungen zur Konzeption und Entwicklung.* Luchterhand.
- Knauf, A. / Liebers, K. / Prengel, A. (Hg.) (2005): *Länderübergreifende Curricula für die Grundschule.* Julius Klinkhardt, Bad Heilbrunn.
- Ministerium für Bildung, Jugend und Sport des Landes Brandenburg/ Senatsverwaltung für Bildung, Jugend und Sport Berlin/ Senator für Bildung und Wissenschaft Bremen/ Ministerium für Bildung, Wissenschaft und Kultur Mecklenburg-Vorpommern (Hg.) (2004): *Rahmenlehrplan Grundschule Deutsch.*
- Weinert, F. E. (Hg.) (2001): *Leistungsmessungen in Schulen.* Beltz Verlag, Weinheim und Basel.

(2) 学習指導要領の分析

統一後ドイツにおけるカリキュラム改革を、ドイツ諸州で作成されている学習指導要領（とりわけベルリン州をはじめとした「諸州共同版学習指導要領」（2004年））の分析を行った。さらに、州レベルでの学習指導要領作成に影響を与えている「教育スタンダード Bildungsstandards」の開発および検証を担当している、フンボルト大学の「教育制度における質的開発研究所（IQB: Institut zur Qualitätsentwicklung im Bildungswesen）」を訪問し、関係者らにインタビューを行った。

(3) 教育実践のフィールドワーク

ベルリン州の学校でのフィールドワークおよび、教師・校長・職員へのインタビューを行い、教育実践レベルでのカリキュラム改革の調査を行った。

実際にフィールドワークを行ったのは、ベルリン州の Tempelhof-Schöneberg 地区に位置する公立小学校シュテルンベルク-グルントシューレ (Sternberg-Grundschule) である。同校を、2010年3月22日(月)および2010年9月16日(木)の二度にわたって訪問した。訪問の際には、校長をはじめとした教員へのインタビュー、1・2年の複式学級をはじめとした授業参観、授業者への聞き取り、さらに終日支援を行う施設職員へのインタビューを行った。

また、2010年9月15日(水)にはイェナにおいて、旧東ドイツ出身の教授学者であり、現在エッセン大学の教授であるコリアント (Coriand, R.) 氏へのインタビューを行い、

ドイツ統一前後とその後のドイツにおけるカリキュラム改革、研究動向、実践上の課題に関する研究交流を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は、次の三点に要約される。

(1) 現代ドイツカリキュラム論の理論的特質
PISA ショック後のドイツにおいては、コアカリキュラム Kerncurriculum 論を議論の焦点としながらカリキュラム論が展開されてきている。しかし、欧米を中心とした「スタンダードに基づくカリキュラム改革」をそのまま導入しえない一般陶冶論の基盤が残っているところが、ドイツにおけるカリキュラム論の特質であることを明らかにした。

(2) 州レベルでの学習指導要領改訂の特徴

連邦レベルで「教育スタンダード」が作成され、それに基づいて各州での学習指導要領改訂が進んできている。多くの州では、コンピテンシーモデルに基づいて学習指導要領が作成されつつある点に、ドイツカリキュラム改革の特質があることを明らかにした。

(3) 学校レベルでの教育実践への影響

ベルリン州の公立小学校へのフィールドワークを通して、子どもへの個別支援とコンピテンシー獲得に重点を置いた教育実践が行われつつある点を明らかにした。その意味では、州レベルでのカリキュラム改革は、学校レベルでの教育実践にも大きな影響を与えてきている。

これらの研究成果は、「学力」の問題を含み込んだ子どもたちの「生活」の問題への対応が学校・教師に迫られていることを示している。このことは、国内外を問わず、学校論・カリキュラム論・授業論の統一的把握を目指した理論構築という課題を投げかけている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

1. 吉田成章「学校カリキュラムにおける『時間』の問題—ドイツにおける議論を手がかりに—」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)、第56巻、査読無、2011年、79-84頁。
2. 深澤広明・吉田成章・八木秀文・熊井将太・大瀬元貴『『ジャンル・アプローチ』にもとづく教科書の研究(2)—平成22年検定済小学校「社会」「算数」「生活」「保健」教科書を中心に—』中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)、第56巻、査読無、2011年、157-168頁。
3. 吉田成章「コンピテンシーモデルに基づくカリキュラム改革と授業実践—ドイツにおける諸州共同版学習指導要領を中心に—」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』、第59号、査読無、2010年、11-20頁。

4. 吉田成章「現代ドイツのカリキュラム論に関する研究—コアカリキュラム(Kerncurriculum)論を中心に—」日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』、第19号、査読有、2010年、15-28頁。

5. 吉田成章「教育課程の編成と評価に関する一考察—戦後初期学習指導要領の分析をとおして—」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)、第55巻、査読無、2010年、207-212頁。

6. 吉田成章「学校カリキュラムの開発と評価に関する一考察—雑誌『カリキュラム』の分析をとおして—」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』、第58号、査読無、2009年、37-46頁。

7. 吉田成章「子どもの育成環境としての学校の再編に関する一考察—ドイツにおける終日制学校をめぐる争点を手がかりとして—」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)、第54巻、査読無、2009年、19-24頁。

〔学会発表〕(計7件)

1. 深澤広明・吉田成章・八木秀文・熊井将太・大瀬元貴『『ジャンル・アプローチ』にもとづく教科書の研究(2)』中国四国教育学会第62回大会、香川大学、2010.11.21。
2. 吉田成章「学校カリキュラムにおける『時間』の問題」中国四国教育学会第62回大会、香川大学、2010.11.20。
3. 吉田成章「ドイツ教授学における『一般陶冶』の問題—ノイナーとクラブキーの比較を通して—」日本教育学会第69回大会、広島大学、2010.8.22。
4. 吉田成章「コンピテンシーモデルに基づくカリキュラム改革と授業実践—ドイツにおける諸州共同版学習指導要領を中心に—」日本カリキュラム学会第21回大会、佐賀大学、2010.7.4。
5. 吉田成章「教育課程の編成と評価に関する一考察—戦後初期学習指導要領の分析を通して—」中国四国教育学会第61回大会、島根大学、2009.11.22。
6. 吉田成章「学校カリキュラムの開発と評価に関する一考察—雑誌『カリキュラム』の分析をとおして—」日本教育方法学会第45回大会、香川大学、2009.9.26。
7. 吉田成章「現代ドイツのカリキュラム論に関する一考察—コアカリキュラム(Kerncurriculum)論を中心に—」日本カリキュラム学会第20回大会、神田外語大学、2009.7.11。

〔図書〕(計1件)

1. 吉田成章、広島大学出版会、『ドイツ統一と教授学の再編—東ドイツ教授学の歴史的評価—』、2011年、311頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 成章 (YOSHIDA NARIAKIRA)
広島大学・大学院教育学研究科・講師
研究者番号：70514313

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：